



奈文研“2022メモリアル・イヤー”を迎える!

2022年は、奈文研とゆかりの遺跡にとって、記念すべき“メモリアル・イヤー”となりました。

まず、奈文研が奈良における文化財関係の国立研究機関として設置されてから70年が経ちました。そして、長年にわたり調査研究のフィールドとしてきた平城宮跡が、文化財保護法の前身である史蹟名勝天然紀念物保存法(1919年制定)のもとに史跡に指定されてから、ちょうど100年目を迎えました。さらには、平城宮跡とともに調査研究のフィールドとしてきた藤原宮跡の特別史跡指定、高松塚古墳の極彩色壁画発見から、ともに50年の歳月が経過したのです。今年は、これらの四つが重なる文字どおり「記念の年」となったといえましょう。

このことを受け、奈文研では、創立70周年を迎えるにあたり、11月後半の刊行に向けて記念誌の編集を進めているところです。また、奈文研創立70周年と平城宮跡史跡指定100周年を記念し、去る6月25日(土)には、なら100年会館大ホールにおいて、「平城宮跡の過去・現在・未来」と題する公開シンポジウムを開催しました。今秋、10月22日(土)には、東京・有楽町の朝日ホールにおいて、東京文化財研究所との共催のもとに、高松塚古墳壁画発見50年の記念講演会を開催することとしています。また、藤原宮跡資料室においても、模様替えに向けて準備を開始したところです。

“2022メモリアル・イヤー”的後半に向けて、引き続き私たち奈文研がお届けする企画にどうぞご期待ください。

(所長 本中 真)



平城宮跡史跡指定100周年・奈文研創立70周年記念シンポジウムのパネルディスカッション